

職場体験 感想文コンクール2025

タイトル	愛される場所	事務局	105
学校名	新庄市立新庄中学校	氏名	大竹 昊星 <small>ろせい</small>

新中ハローワークの活動の中で、僕はまゆの郷の求人票に目が留まりました。まゆの郷があるエコロジーガーデンでのイベントには行ったことはあるものの、まゆの郷には行ったことがなかったからです。気になったのでまゆの郷のホームページを開いたところ、学校給食への野菜の提供や地産地消につながる活動をしているということがわかりました。野菜の直売場にはこんな役割もあるんだなと思い、また、地域に必要なものだなと感じました。そこから興味を持ち、まゆの郷へ行くことを決めました。

まゆの郷があるエコロジーガーデンで、僕は様々なことを体験させていただきました。当日、僕は集合時間の15分前に着いてしまいました。しかし、そこにはすでに活発に入荷作業をしていらっしゃる農家さんや、もう扉の前で開店をお待ちになられているお客さんの姿がありました。集合時間前に入荷入口からお店に入っていったいいのかわを迷いつつ、開店を待っているお客さんへ挨拶して、声をかけてみました。「もうお待ちになられているのですか?」「そうですよ。君はどうしたの?」僕が「仕事体験をさせていただきに来ました。」と言ったところ、「じゃあ横の入口から入ったらいいんねがわ。」と言われたので、お店に入ることにしました。店内に入ると新鮮な野菜がきれいに並べられていました。店員さんに声をかけ、そこからまゆの郷での仕事体験が始まりました。

最初に、会長の坂本孝一郎さんからまゆの郷について教えていただきました。産直の仕組みや商品の種類を通して、まゆの郷だけでなく、新庄市や山形県についても学ぶことができました。例えば、新庄市では果実を育てておらず、きれいなお花を育てている農家さんが多いということ。山形県内には、約200ヶ所も野菜の直売所があるということなどです。

教えていただいている最中にも、笑顔が見られたり少し冗談を言ったりと、雰囲気の良い空間でした。一番印象に残っているのは、坂本さんがまゆの郷について「なくてはならないものだよ。」と表現されたときです。「あった方がよいもの」と感じていた僕にとって、「なくてはならないもの」という言葉は、すごく心に響きました。

それから店内での作業に移りました。まずは、午前中のチーフの方と一緒に店内の様子を確認していききました。お客さんからの質問に対応できるように、どんな商品がどこにあるのか、また今日はどんな商品が入荷されていないのかを調べていききました。このような小さなひと手間でもお客さんに寄り添うことができるのだなと感じました。

次に、東北農林専門職大学のみなさんが栽培したぶどうを詰める作業をさせていただきました。最初は簡単な作業だと思っていましたが、そう簡単にはいきませんでした。デラウェアという品種に、すばやく丁寧に値札シールを貼り、商品ラックに並べました。ところが、商品ラックにだんだんと余白がなくなっていきました。そこで一緒に作業をしていた方にどうすれば良いのかをお聞きしました。すると「他の商品を自由に動かして余白をつくっていいですよ。」と教えていただきました。そこで、ぶどうの下段に置いてあったスイカを他のかごへと移動させました。ずっしりとした立派なスイカだったので、少し大変な作業でした。また、どのスイカをどのようにどのかごへ入れるとより多くの余白が生まれるかなど、頭を使う作業でもありました。そ

職場体験 感想文コンクール

「愛される場所」 新庄市立新庄中学校 大竹 昊星

れでも、お客さんにより多くの商品を提供するためには必要な作業だなと感じました。作業中におぶどうをかごへ入れるお客さんもいらっしやったので、初めて働くことのやりがいを感じる場面にもなりました。

それから、レジのサポート接客をさせていただきました。これも頭を使い、またスムーズに行わなければなりませんでしたが、そこにはお客さんへの思いやりがあふれていると感じました。

最初に難しいと感じたのは、商品を袋に入れる作業です。どの商品を土台となる一番下へ置くか、この商品は縦に置くか横に置くかなど、まるで積み木で崩れない家をつくっているようでした。また、ふたがされていなかったり潰けられたりしている商品は、丁寧にアイラップに入れていきました。そして、お盆前だったので、お買いになるお客さんが多かったお花は、新聞紙で丁寧に包みました。ほとんどのお客さんから「ありがとうね。」「丁寧だね。」と感謝されました。また、「仕事体験？どこの学校？」と親しく声をかけてもらったりしたので、めげずに続けられることができ、だんだんとスムーズにレジの補助を行うことができるようになりました。

僕がスムーズに補助を行うことができたのは、他にも理由がありました。それは、驚くようなレジの工夫でした。1つ目は、アイラップを箱から出し、細長くし、すぐに開けられるようにしておくという工夫です。この工夫のおかげでお客さんのことを考え、アイラップを多めに使うまゆの郷でもスムーズな作業ができました。2つ目は、新聞紙を開いて重ねておくことです。この工夫により、お花を包む時間を短縮することができました。まゆの郷のレジには、工夫とお客さんへの思いにより、丁寧さと速さが兼ね備えてありました。それにより、お客さんとの会話が生まれていました。そこからも、まゆの郷がすごく愛されている場所なのだと感じました。

貴重な体験ばかりで、様々なことに驚かされたり印象に残ったりする場面が多くありました。その中でも一番に印象に残っており、自分のこれからにつなげられるなど感じたのは、午前パートのチーフさんのお話です。その方は様々な作業をどンドンこなしていて、僕は少し憧れを抱きました。

その方のお話でよりありがたいなと感じたお話は、作業の優先順位のつけ方です。キーワードは、「緊急度」と「重要度」でした。まず初めに、緊急度の横軸と重要度の縦軸があるグラフの中にアイウエの四つの記号が右上から時計回りにありました。最初に「まずどの記号に当てはまる作業に取り掛かりますか？」と聞かれました。「アに取り掛かります。」と答え、「そうですね。」と言われました。「これを常に意識することが大事です。そうすると、やることが多いときでも焦らずに、頭に余白が生まれていきます。」と教えていただきました。実際に体験中も実践してみると、気持ちの焦りも解消されていきました。また、学校生活の中でも取り入れていけば無駄な焦りが減り、何事もスムーズに取り掛かることができると感じました。

まゆの郷の体験では、まゆの郷のことだけでなく、接客業や仕事のテクニックまで学ばせていただきました。そして何より、新庄市民に愛される、まさになくてはならない場所だと感じました。また、自分にとっても、なくてやないに場所になりました。

この体験を通して、これから僕は、人々に愛されるものを作る側になりたいです。